さいたま市立桜木中学校　学校だより　　第　２　号　令和８年４月３０日　発行

さくらぎ

～未来の桜よ咲きほこれ　８０年の思いを幹に～

〒330-0854　さいたま市大宮区桜木町４－２１９
ＴＥＬ　０４８－６４１－０４５９
ＦＡＸ　０４８－６４５－４５８４
Ｅ-mail　sakuragi-j@saitama-city.ed.jp

「“誰かのために”が育つ学校で」

校　長　　森角　由希子

新緑がまぶしく、校庭の木々が一段と色を深める季節となりました。子どもたちの表情にも、学年が始まった頃の緊張がほどけ、日々の学校生活に自分らしさが戻ってきているのを感じます。５月を迎えるにあたり、私自身の小さな原体験を一つ紹介したいと思います。

小学生の頃、私は JRC（青少年赤十字）委員会に所属していました。１円玉募金や使用済み切手の寄付、点字ブロックの掃除、トレーニングセンターへの研修の参加など、「誰かのために動く」経験を重ねました。学校の近くには視覚に障がいのある方が利用する施設があり、点字ブロックの清掃活動に参加しながら「安心して歩いてほしい」と願ったことを今でも覚えています。

中でも印象に残っているのは、使用済み切手の収集です。当時、200 枚でワクチン１本分の支援になると聞き、「こんな小さなものにも価値があるのだ」と胸が熱くなりました。友人から届く手紙の切手を大切に集め、家族にも協力してもらいながら枚数を増やしていく日々は、幼い私にとって“世界とつながる実感”でした。

大人になってからも、その記憶は折に触れて思い出されます。数年前、再び収集を始め、年に一度送るようにしています。希望すると受領確認のはがきが届き、今年は、2024 年度に全国から 10,183 件の協力があり、換金額は 1,285 万円にのぼったこと、使用済み切手約 3,000 枚（約 600 グラム）がタンザニアの看護学校の学生一人の一か月の実習費になることが記されていました。小さな紙片が、遠い国で学ぶ誰かの未来を支えていることに、改めて深い感動を覚えました。

本校は今年、創立 80 周年を迎えます。長い歴史の中で、子どもたちが積み重ねてきた「小さな善意」や「誰かを思う気持ち」は、きっと数えきれないほどあるはずです。私自身も、80 周年にちなんで 800 枚の使用済み切手を届けることを目標に、また少しずつ集めています。

子どもたちが日々見せる思いやりの行動は、どれも小さな出来事に見えて、実は本校の教育がめざす「よりよく生きようとする力」の核心にあります。目の前の誰かを助ける姿も、遠く離れた誰かに心を寄せる姿も、“自分の行動が社会を動かす”という実感につながります。こうした経験の積み重ねこそが、未来の担い手を育てる上で学校が最も大切にしたい学びです。

５月は、学級や学年の関係が深まり、子どもたちが互いの存在を意識しながら生活を形づくる時期です。この季節を、優しさや主体性が自然と育まれる時間にしていきたいと考えています。一人ひとりの思いやりの芽を見逃さず、学校全体で丁寧に育てていくことが、80 年の歴史を受け継ぐ私たちの使命でもあります。